

八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校新聞部
交通安全号

通学時の事故防止を図る 教習所で交通安全セミナー 日々の運転振り返る

10月1日(火)6,7限に本校横の近江八幡安全教育センター(自動車教習所)で3年生を対象としたヤングドライバーズセミナー(交通安全教室)が行われた。通学時の交通事故を防止しようといわれ、改めて交通安全について学んだ。



→市内の交通安全について話す
近江八幡警察署の藤井さん

最初に、近江八幡警察署の藤井さんが、近江八幡市内の交通事故は減少しているが、自転車での事故は増加傾向にあると話された。

その後、学年を2班に分け交差点での事故を想定した実演や時速40kmで走行する自動車がどのくらいで止まるかを助手席で実際にブレーキを踏んで体験した。

記者(藤)も体験した。個人差はあるが40km/hでブレーキを踏んでから7~8m、60km/hで13m進む。当たり前だがスピードが上がるにつれて距離も上がっていく。今

回は踏むタイミングを事前に把握していたため素早く踏めた。しかし、これがふとした場面なら踏むのは遅れるのだろう。

続いて、交差点での事故を想定した模擬体験が行われた。私たちは自転車を運転している時、自動車が横を通ることがある。この場合、一見自動車運転手からは自転車が見えてそうに思えるが、実は死角により見えていないことを実証。

また、車の内輪差の影響で巻き込まれることもある。このことを普通車やトラックで実演してもらった。ちなみに普通自

当日の動き



↑普段の運転について話される乾さん



↑ブレーキを実際に踏み停止
コーンがストップ位置だが中々難しい

1. 5クラス合同で警察署の方の話を聞く
 2. 学年を2班にわかれてそれぞれの体験場所へ移動
 3. 自動車からの死角やそれによる自転車事故について学ぶ
 4. ブレーキを実際に踏む体験
- 3、4は2班で交代して学ぶ



←自動車からの※死角について話す
教習所教官・川嶋道夫さん

※死角・・・
一般的に運転席からは目視した時に見えない部分

動車の前タイヤの内輪差は110cm。11m幅のトラックでは300cmと車体の幅に比例して大きくなっていき、横を通ることの怖さを実感した。

ゲストの乾さんは「交通事故はちょっとした気づかいで防げらと思う」と話す。

さらに、病院で勤務している乾さんは交通事故について「日常生活に支障が出ている人のリハビリもしてきた。現場に立っている人間として高校生の皆さんには同じ思いをしてほしくない」と話してくれた。

交通事故は我々の身近で起きるものだ。もう一度セミナーの内容を思い出し事故防止につなげたい。



↑11月5日 本校体育館にて1・2年生も講習を受けた

乾 友紀子さん

元アーティスティック
スイミング選手
滋賀県近江八幡市出身

小学校1年よりアーティスティックスイミングを始めた。2022年の世界選手権では日本選手初となるソロテクニカル・ソロフリーで自身初の金メダルを獲得。

さらに翌年の世界選手権でも金メダルを獲得し2冠を達成。現在は選手を引退しスイミングクラブで小中学生を主に指導する傍ら大阪市の病院で勤務。インストラクターとしてリハビリに携わっておられる。

昨年、ここ近江八幡安全教育センターで免許を取得した縁から今回のイベントに声がかかった。「このようなイベントに参加する機会は少ないため今回はとても良い機会だった」と話してくれた。



↑取材の様子